

令和6年度 第4回 京田辺市立図書館協議会 会議要旨

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

- (1) 令和6年度の利用状況
- (2) 図書館事業開催状況について
(事務局)

日誌より、12月20日に書庫公開DAYを開催。申込方法を、従来の葉書や来館に加え、LOGOフォームからの受付を開始した。23名の申込があり、内17名がLOGOフォームからであった。

1月20日から29日に電算システムの入れ替えを行った。大きな変更点として、利用者開放端末にレシートプリンターを設置、書庫資料利用票が印刷できるようになった。それにより、カウンターでの書庫出納の対応がスムーズに行えるようになった。京都府立図書館に出前研修を依頼し、職員全員でレフアレンス研修を受講。

利用状況について、昨年と同じく微減が続いている。

蔵書点検の結果について、昨年と同等の数値となった。コロナ前と比較すると大幅に減少。中央図書館と北部分室で同じ作者の小説が不明となっている。

その他関連事業として、絵本についてのはなしを中心図書館で開催。後日、数組の方が来館され利用に繋がっている。7年ぶりに、講談社全国訪問おはなし隊に来てもらうなど、連携しながら事業を行った。

(委員)

利用状況について、移動図書館以外はすべて減少している。数値的には問題ないが、減少し続けていることに関しては何か考えていく必要がある。図書の価格が上がっているので、購入冊数も減少していると思う。必然的に貸出冊数も減る。貸出冊数が減少していることだけが出てしまうので、そのあたりを様々な指標を示して上手にアピールしていくことが大切である。

事業に関しては、頑張って行っているが、同じ事を淡々とすることは悪いことではないが、アピールポイントとしては弱い。今後考えていくべき点ではある。

(委員)

無印良品松井山手店内のブックポストの利用が、北部分室の方が多いという

ことであるが、北部分室で借りて無印良品のブックポストに返却するということでおいい循環ができている。貸出冊数が少ないということではあるが、北部分室を利用される方は、人とのつながりを求めているので会話を大切にしてもらいたい。

(委員)

図書館職員に関して、図書館の職員がいることに意味がある、専門的なことをしているときちんと伝えられるように。

(委員)

図書館は社交の場ではなく学びの場であると思う。それに答えうる司書が図書館にいて欲しい。

(3) 京田辺市立図書館サービスアクションプラン（素案）について

(事務局)

第3回の協議会で図書館の現状や課題、特色などの説明を行った。今回は、図書館の使命や目指す姿などを中心に、具体的な取り組みの内容を委員の方でご検討いただければと思う。

前回、委員の皆さまからいただいた意見を反映し修正を行った。市立図書館のミッションの一つに挙げた本との出会いの項目に、読者と作者の対話の架け橋となること、また、交流の空間の項目に、みんなが居心地の良い空間を作ることを目指す内容を追加。

具体的な取り組みとして、「居心地のよい空間づくりと「つながり」を育む仕掛け」「紙の資料にもデジタル情報にも出会える、魅力ある棚づくり」「図書館サービスのさらなる発展に向けた取り組み」「新たなサービスを実施するために職員の力を引き出す仕組みづくり」の4つのアクションを設けた。

(委員)

居心地のよい空間づくりとしては、ゾーニングなどの内容をしっかりと書き込む。その他、魅力あるコレクションの構築として、デジタル資料について書かれているが、図書館としては、紙の資料についてももっと前面に出すべきである。

(委員)

図書館の利用者の方に意見を聞くためにも、アンケートを取るなどをしてもらえればと思う。

次回開催予定 令和7年6月4日（水）午後3時30分～ 集会室